

国指定史跡 三木城跡及び付城跡・土塁 ウォーキングマップ



三木城跡及び付城跡・土塁の歴史的背景

天正6年(1578)から8年にかけて織田信長と三木城主別所長治の間で行われた三木合戦に関わる城跡と土塁群。戦国期の合戦の過程や全容を具体的に把握する上で重要な史跡です。



問い合わせ
三木市立みき歴史資料館
〒673-0432 兵庫県三木市上丸町4番5号
TEL.0794 (82) 5060
URL. https://www.city.miki.lg.jp/site/mikirekishiryokan/

三木市立みき歴史資料館
三木城の二の丸跡に立地し、史跡のガイダンス施設の役割を担っています。三木の原始古代から現代までの歴史資料を常設展示しているほか、定期的に企画展も開催しています。

令和元年12月発行

国史跡 秀吉本陣跡 (平井山ノ上付城跡) コース

コース 約6.5km

- 1時間30分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 恵比須駅
- ▼ 30分
 - 1 竹中半兵衛の墓
 - ▼ 5分
 - 2 秀吉本陣跡(登城口)
 - ▼ 10分
 - 3 竹中半兵衛陣跡
 - ▼ 45分
- 終点 恵比須駅



コース紹介
三木合戦の際、羽柴秀吉が本陣とした秀吉本陣跡。その本陣の北側の守備を担っていた竹中半兵衛陣跡などを通るコースです。

秀吉本陣跡 (平井山ノ上付城跡)
三木合戦の際、羽柴(後の豊臣)秀吉が本陣とした付城です。美濃川と志染川の間に挟まれた山の上に位置し、南西に三木城を望むことができます。天正6年(1578)7月、織田信長の長男、信忠が三木城を支援する神吉城と志染川ともに加古川市を攻撃した後、築城したとされています。8月に羽柴秀吉が入ると、10月15日に津田宗及を招いて茶会を開催しました。同日2日に別所方が襲来して合戦が始まりましたが、別所長治の弟別所治房が討死するなど、別所方の敗北に終わっています。

竹中半兵衛の墓
三木城攻めの際、別所秀吉が本陣とした付城です。主郭から西に三木城を望むことができます。

竹中半兵衛陣跡 (平井山ノ上付城跡)
三木合戦の際、秀吉本陣の北側守備を担っていた竹中半兵衛の陣跡です。別所長治による城主は竹中半兵衛とされています。

国史跡 三木城を極める コース

コース 約2.5km

- 35分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 二の丸跡(みき歴史資料館)
- ▼ 2分
 - 1 本丸跡
 - ▼ 10分
 - 2 鹿尾山城跡
 - ▼ 10分
 - 3 宮ノ上要害
 - ▼ 10分
 - 4 雲龍寺
 - ▼ 3分
- 終点 二の丸跡(みき歴史資料館)



コース紹介
三木城は東播磨の守護代別所の居城で、南側に鹿尾山城、宮ノ上要害などを配置し、三方を崖に囲まれた天然の堅城! 「三木の千早し殺し」で有名な三木合戦の舞台となったお城を通るコースです。

三木城について
三木城は、東播磨で最大の勢力を持った別所の居城で、上の丸地の上に築かれた丘城です。寺丸、二の丸を中心に、新城・鹿尾山城・宮ノ上要害などで構成された各曲輪が立ち並ぶ構造のお城です。城の北側に美濃川や切り立った崖、南側に山や谷といった自然地形に守られたお城でしたが、天正8年1月、羽柴秀吉による1年10か月の包囲戦により、落城しました。

本丸跡 (平成25年3月国史跡指定)
上の丸公園として市民に親しまれている本丸跡には、天守台と伝わる墓土やかん井戸の遺構が残っています。また、発掘調査によって、歴史や城跡、宮ノ上要害跡などの城の遺構や遺物が地下に残っていることが分かっています。

国史跡 這田村法界寺山ノ上付城跡コース

コース 約2.5km

- 1時間10分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 法界寺
- ▼ 10分
 - 1 這田村法界寺山ノ上付城跡
 - ▼ 10分
 - 2 朝日ヶ丘土塁
 - ▼ 15分
 - 3 高木大塚城跡
 - ▼ 35分
- 終点 法界寺



コース紹介
法界寺の背後の山頂に位置する這田村法界寺山ノ上付城跡から、朝日ヶ丘土塁(多土塁)、高木大塚城跡までを通るコースです。

這田村法界寺山ノ上付城跡 (平成25年3月国史跡指定)
三木と姫路を結ぶ山街道の南側に建つ法界寺の背後の山の上に位置します。北東に三木城跡とその先に羽柴秀吉の本陣平井山ノ上付城跡を見通すことができます。城主は、秀吉の重臣・宮部藤成と伝わっています。

朝日ヶ丘土塁 (平成25年3月国史跡指定)
朝日ヶ丘土塁は、這田村法界寺山ノ上付城跡の南東部に位置します。織田氏によって築かれたもので、三木城南側の付城跡を多量の土塁でつなぐにつれて、南側付城跡が埋没されています。これは商人による物資運送、近隣勢力や毛利氏などから守られる兵隊などを止めて「三木の千早し殺し」に決定的役割を果たしたと考えられます。

城下町コース

モデルコース 約4km

- 1時間5分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 恵比須駅
- ▼ 10分
 - 1 湯の山街道
 - ▼ 15分
 - 2 三木城本丸跡
 - ▼ 5分
 - 3 旧玉置家住宅
 - ▼ 15分
 - 4 三木鉄道記念公園
 - ▼ 10分
 - 5 旧小河家別邸
 - ▼ 10分
- 終点 三木駅



コース紹介
城下町エリアに残るお寺や国登録文化財など、独特の風情を残す町屋から往時の面影を歴史と伝承あふれるまちを散策するコースです。

湯の山街道
戦国時代、羽柴秀吉が三木城を攻めたとき、戦行動向に利用し、また戦傷者の治療に湯の山(有馬温泉)へ送るため整備したと伝わる街道です。それ以前、湯の山街道とよばれた江戸時代には、大なる陣置が置かれ、参勤交代に利用されたほど重要な街道であったほか、各地からの参詣者の往來で賑わった街道です。

国史跡 ホースランドパーク周辺 付城跡コース

コース 約4.5km

- 1時間10分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 道の駅みき
- ▼ 20分
 - 1 明石道峯付城跡
 - ▼ 15分
 - 2 シクノ谷峯付城跡
 - ▼ 10分
 - 3 高木大山村付城跡
 - ▼ 10分
 - 4 高木大塚城跡
 - ▼ 15分
- 終点 道の駅みき



コース紹介
三木合戦の半年ごころ、織田信長の長男、信忠の軍勢が襲いたとされる6か所の付城のうち、4か所(明石道峯付城跡・シクノ谷峯付城跡・高木大山村付城跡・高木大塚城跡)を通るコースです。

高木大塚城跡 (平成25年3月国史跡指定)
朝日ヶ丘土塁の一角のホースランドパーク敷地に立地します。城主は不明です。播州三木城地区に描かれています。天正7年(1579)4月に織田信忠の軍勢が襲った6か所の付城の一つである可能性があります。

明石道峯付城跡 (平成25年3月国史跡指定)
明石道が直下を通る尾根の先端に位置しています。播州三木城地区に描かれています。天正7年4月に織田信忠の軍勢が襲いた6か所の付城の一つと考えられます。城主は不明です。

三木城概略歴史年表

西暦	和暦	日付	出来事
1522	大永2	10月6日	別所村治、浦上村宗に「別所城」を攻められたが、これを撃退する。
1529	享祿2	10月3日	村宗に三木城が攻められ、「当城山下、於西之口合戦」におよんだが、反村宗派の軍人衆の活躍により持ちこたえる。
1530	享祿3	6月29日	村治、柳本賢治とともに加東郡の依藤氏を攻撃するが、賢治が暗殺され、総崩れとなる。村治、三木城から退去する。
1531	享祿4	6月頃	村治、三木城に復帰する。
1538	天文7	11月20日	村治、尼子勝久方により「三木要害」を攻撃されるが、これを撃退する。
1539	天文8	12月25日	村治、尼子方の戦況がわるいかわい播磨守赤松晴政が三木城に迎え入れたが、村治が尼子方に内通したとの噂が立ったことから、晴政は身の危険を感じ、三木城を退去する。
1544	天文23	9月	三好長慶が、別所氏の属城7か所を落とす。
		11月	村治、三好方に三木城を攻められるが、持ちこたえる。
		2月	三好方が撤退する。この後、別所氏は三好方となる。
1567	永祿10	9月	別所安治、三好三人衆の求めに応じ、約1000の兵を率いて奈良・大坂へ出陣。多聞城に籠る松永久秀を攻める三好三人衆の応援にあたる。
		10月10日	松永久秀が東大寺に籠る三好三人衆を攻め、これを破る。大仏殿等、兵火により焼失。別所安治、永室山法雲院にいたが、自陣を焼いて播磨へ帰る。
1568	永祿11	10月頃	別所安治、足利義昭の幕府職任を機に三好氏を破れ、織田氏に属す。
1569	永祿12	8月19日	織田軍の播磨侵攻に、別所氏も従軍。
1570	元龜1	1月	別所三郎、信長の求めに応じ、上洛。
		10月以前	別所三郎、浦上宗景に三木城を攻められる。
1572	元龜3	4月以降	別所氏が信長と主従の関係が確立。別所三郎、信長からその偏諷「長」を拜領して長治を名乗る。
1577	天正5	10月23日	羽柴秀吉、信長の命を受け播磨へ出陣する。
		12月3日	羽柴秀吉、上月城を攻略。上月城には尼子勝久、山中幸盛らを入れ、その女・子供・老人は人質として三木城に置く。
		3月	長治、信長を見限り、秀吉、三木城に押し寄せ、近隣の村を攻め、
1578	天正6	4月1日	別所方、秀吉に一味した織田氏の庄内衆を襲撃する。為村が討死。
1578	天正6	7月	神吉城・志方城(加古川市)落城。その後、織田信忠が、秀吉本陣となる平井山ノ上付城まで付城数箇所を構築。(第1期の付城構築)※①
		10月15日	秀吉、「三木之付城」で茶会を催す。
		10月22日	平井山合戦。別所治定(長治の弟)が討死。
		2月	別所長治の「詫言」を信長が拒否。
		4月	織田信忠、新たに付城6か所を構築。(第2期の付城構築)※②
		5月	丹山山陥落。淡河城も落城。淡河城主、三木入城。
		6月13日	秀吉の軍勢、竹中半兵衛死去。
		9月・10日	平田大村合戦。安芸・備前・播磨の軍勢が、三木城への兵糧搬入を阻む。これに別所方からも兵出、秀吉と交戦する。秀吉の谷太旗が討死。別所方も多数の武将が討ち取られる。
		10月7日	秀吉、新たに付城を築き、三木城の包囲を続ける。(第3期の付城構築)※③
1580	天正8	1月17日	長治ら、切腹し、三木城落城。その後、杉原家次が三木城主となる。
1583	天正11	6月頃	前野長康、播磨国主羽柴秀吉の配下として、「東郡三木城」に配される。
1585	天正13	10月8日	中川秀政、摂津茨木城から「東郡三木城」に配される。
1592	文祿1	10月	秀政、文祿の朝、朝鮮にて戦死。弟の秀成が三木城主となる。
1594	文祿3	2月	中川秀成、豊後岡城として国替。三木は豊臣氏の領地となる。
1595	文祿4	9月18日	但馬豊前城主福原長成、三木の代官として雲龍寺に禁制を交付する。関ヶ原合戦後、池田輝政が姫路城主となる。三木城は姫路城の支城となり、家老伊木忠次が三木城主となる。
1603	慶長8		伊木忠次死去により、子の長門守忠忠が跡を継ぐ。
1615	元和3		一國一城令が公布される。これにより三木城は廃城の運命となる。
1617	元和5		小笠原氏が明石に入部。それに伴い、明石築城の間、家臣団が三木に入居する。
1620	元和6		小笠原家臣団が明石に移住。これにより、在郷町三木が成立する。

※①三木城攻めへの足がかりとするため、三木城の東から北側の丘の上に付城を構築
※②毛利軍の兵糧搬入を阻止するため、南側の山ノ上付城及び包囲網の土塁を築く
※③三木城を攻め取ったため、主要街道を遮り、最新鋭の付城を構築

小林八幡神社付城跡コース

コース 約5.5km

- 1時間20分
(見学時間を除く)
所要時間の目安
- 起点 志染駅
- ▼ 25分
 - 1 小林八幡神社付城跡
 - ▼ 20分
 - 2 明石道峯付城跡
 - ▼ 15分
 - 3 八幡谷ノ上明石道峯付城跡
 - ▼ 20分
- 終点 三木駅



コース紹介
三木合戦の半年ごころ、織田信長の長男、信忠の軍勢が襲いたとされる6か所の付城のうち、2か所(小林八幡神社付城跡・明石道峯付城跡)を通るコースです。

小林八幡神社付城跡 (平成25年3月国史跡指定)
別所町小林的八幡神社境内及びその周辺に位置しています。天正7年(1579)4月に織田信忠の軍勢が襲いた6か所の付城の一つと考えられます。城主は不明です。

八幡谷ノ上明石道峯付城跡
明石道の東側に位置しています。天正7年10月7日に包圍網を断つて築かれた「南八幡山」(播州町征伐戦)に相当すると考えられます。城主は「播磨藩」別所長治とされています。